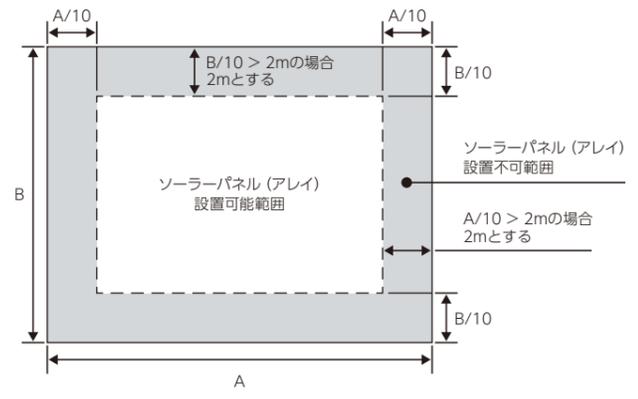


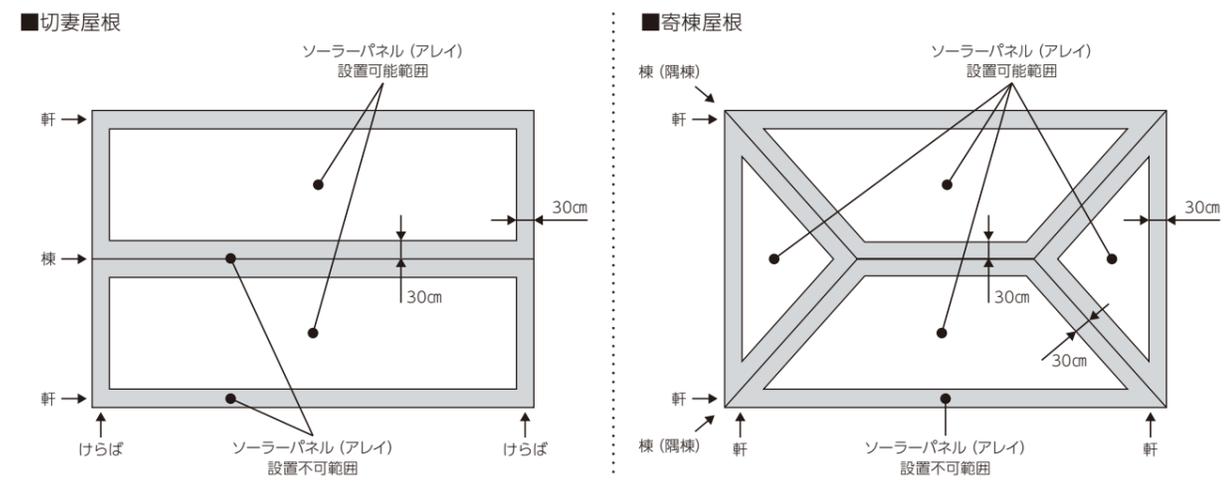
屋根設置について (ソーラーパネル設置可能範囲)

設置 (傾斜) 角度 (屋根勾配) : 0° 以上 10° 未満



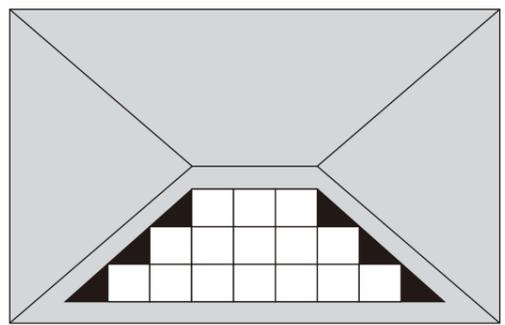
①アレイ (ソーラーパネルおよび金具・架台) を上記の設置対象屋根 (建物) の屋根周辺部 (外周のこと。屋根端部からそれぞれ辺長の10%以内の範囲とする。ただし、辺長の10%が2mを超える場合は2mとする。) へ陸屋根設置で設置する場合は、JIS C8955:2017の適用外です。

設置 (傾斜) 角度 (屋根勾配) : 10° 以上 40° 以下

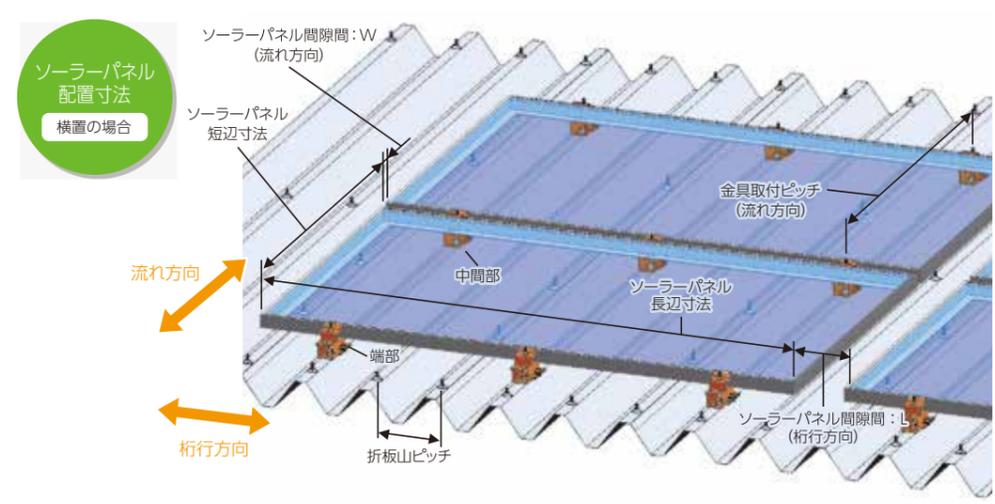


①上記の設置 (傾斜) 角度内で、アレイ (ソーラーパネルおよび金具・架台) を、上記の設置対象屋根 (建物) の屋根周辺部 (軒・げばらおよび棟から30cm以内の範囲) へ屋根置き形 (勾配屋根設置) で設置する場合は、JIS C 8955:2017の適用範囲外です。
 ②以下のような寄棟屋根へのソーラーパネルの設置の場合は、この設置条件の対象外です。別途、お問い合わせください。
 ・屋根表面とソーラーパネル下面との最大距離dがd>50mmとなる寄棟屋根の端部ソーラーパネルを設置する場合

■: 端部モジュール
寄棟屋根の端部ソーラーパネル



各部取合い寸法



イラスト例
 ●ソーラーパネル: NFタイプ
 ●ソーラー金具: 重ね式

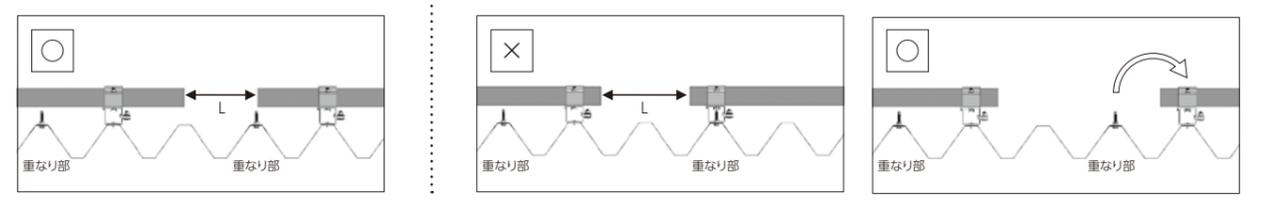
※ソーラーパネルメーカー様にて隙間の指定がある場合は、その指定に準拠してください。

ソーラーパネル間隙間 (桁行方向) : L

左右対称配置の場合 桁行方向 (最小寸法): $L = \{ \text{折板山ピッチ} \times (\text{ソーラーパネル長辺寸法} \div \text{折板山ピッチ}) \} - \text{ソーラーパネル長辺寸法}$

小数点以下切り上げて整数にする

【計算式で対応できる例】 ●ソーラー金具が折板重なり部に該当していない。
 【計算式で対応できない例】 ●ソーラー金具が折板重なり部に該当する場合は、ソーラー金具を折板1山分ずらしてください。



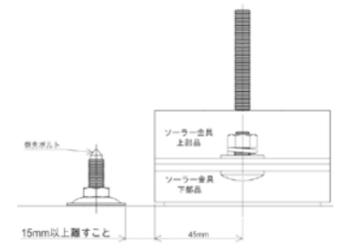
偏心配置の場合 隙間は、屋根・建物・ソーラーパネルの強度・耐久性を考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置 (配置) 仕様 (条件) に準拠した上で、お客様にて決定してください。

※最小寸法が5mm未満の場合は、折板山ピッチを加算してください。また、ソーラー金具が折板重なり部に該当する場合は、ソーラー金具を折板1山分ずらしてください。

ソーラー金具取付ピッチ (流れ方向)

流れ方向 = ソーラーパネル短辺寸法 + ソーラーパネル間隙間 (流れ方向) : W (40mm)

※ソーラー金具 (上部品・下部品) を屋根に取付ける際、剣先ボルトなどの障害物から15mm以上離して取付けてください。



- ①ソーラーパネル固定方法: ソーラーパネルフレーム押さえ固定 4又は6又は8箇所留 (ソーラーパネル1台あたり)
- ②ソーラー金具固定方法: プラインドリベット* 2箇所固定 (ソーラー金具1個あたり)
- ③屋根なり設置 (屋根置き形): アレイ面 (屋根面) = 屋根傾斜 = 設置 (傾斜) 角度
- ④ソーラーパネル1長辺あたり4点固定以上は、ソーラーパネル長辺寸法と桁行方向の金具取付ピッチを考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置 (配置) 基準 (条件・仕様) に準拠した上で、ソーラーパネル間隙間やソーラーパネルへの金具の固定位置を考慮し、お客様にて調整・決定してください。
 ※プラインドリベットを打込む際、専用のアタッチメントリベッター@R03i (株式会社ロプテックファスニングシステム社製) が必要です。
 ※その他の設置条件については各屋根ごとの設置条件を参照してください。